

現地を訪問して想うこと

昭和63年文学部卒 松永 千広

本ツアーに参加させていただいたきっかけには二つある。一つ目は、心理の専門職として働いている自分には、東日本大震災に遭われた方々に対し、何ができるのか、そして、何ができないのかを考えたいと思っただことである。二つ目は、私が敬愛する長渕剛氏が、東日本大震災に遭われた方々のことを想って作られたアルバム「Stay Alive」の一曲一曲に強く心を揺さ振られたことにある。

もっとも、私は非行少年を対象とした仕事を行っており、お役に立てることがほとんどないとは思いつつも、被災された方々のつらく苦しい心情に思いをはせるとともに、被災地が置かれている現状を正しく理解すること、心理の専門職の一人として、そして、一人の人間として必要なことではないかと考えた。また、本ツアーに参加するに先立ち、心

理臨床学会に参加し、東日本大震災関連のシンポジウムに参加したり、発表を聞いたりする中で、被災された方々の思いや現状に対する理解を少しでも深めるよう努めた。

そして、被災地を訪問させていただき、被災された方々から様々な思いや体験をお伺いさせていただく中で、報道等では知り得なかった現実を思い知らされるとともに、大切な人や生まれ育った大切な場所などを一瞬にして失ってしまった方々の想像を絶する思いの一端を多少なりとも知り得ることができたように思う。また、そのような状況に置かれていても、何とか前を向いて、ときにはくじけそうになりながらも、歩いて行こうとされていく方々から、「あなたも、くじけずにしっかり歩いてね。」などといった励ましのお言葉を頂いたように感じた。

正直なところ、今も、自分に何ができるのか分からないし、むしろ、できることなどほとんどないのかもしれない。しかし、そのよ

